

ブロッコリー根こぶ病 防除のための土壌診断

～土壌の健康状態を数値化し、健全な農作物の生産をサポートします～

根こぶ病とは？

根こぶ病菌によって引き起こされ、アブラナ科作物に大きな被害をもたらす土壌病害です。根こぶ病の発病は病菌の量だけでなく土壌の状態や作物などに影響されます。そのため効果的な防除のためには土壌の総合的な耐病性診断が必要です。



ブロッコリー苗に生じた根こぶ

土壌の発病リスクを予測

当社では遺伝子解析技術を用いた根こぶ病菌密度測定と病原菌密度-発病度曲線（DRC）により、根こぶ病発病リスクを診断します。発病リスクを把握することで、適切な防除対策の選定、農薬コストの削減につながります。

診断内容① ～根こぶ病菌密度測定

遺伝子解析技術による根こぶ病菌密度測定を行います。圃場土壌中の病菌密度を把握し発病リスクを予測します。PCR測定装置を用いて根こぶ病菌のDNAのみを測定し、土壌中の菌量を定量いたします。2週間程度で測定結果をご報告いたします。



PCR測定装置

診断内容② ～病原菌密度-発病度曲線（DRC診断）

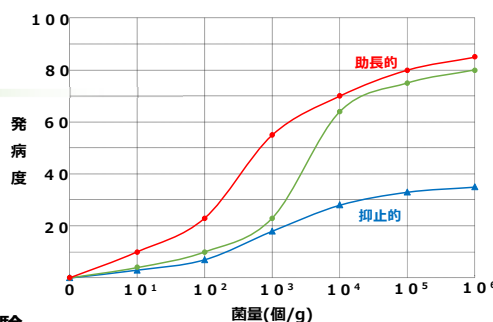
菌密度と発病度との関係性を示す病原菌密度-発病度曲線（DRC）の作成を行います。7条件(0～10⁶個/g)の根こぶ病菌汚染土壌で苗を栽培し発病程度を評価、圃場の根こぶ病発病ポテンシャルを知ることにより精度の高い発病の予測や防除対策選定が可能となります。

診断内容③ ～根こぶ病発病度 簡易検定

DRC診断では7条件の根こぶ病菌汚染土壌で試験を行います、簡易検定では病原菌添加条件を減らすことが可能です（1条件から診断可）。より安価に発病の可能性を判断できます。

例）根こぶ病発病有無を知りたい…根こぶ病菌接種なしでの栽培試験

根こぶ病への抵抗性を知りたい…根こぶ病菌接種10⁶(個/g)での栽培試験



病原菌密度-発病度曲線(DRC)の例

健全な農作物を育成するために

定期的な根こぶ菌密度測定により圃場の菌密度を把握し、リスク管理を行いましょう。また、土壌改良などを行った後は土壌の状態が変化しているので、再度DRC診断を行うことをおすすめいたします。

ご依頼いただきましたら、当社から土壌採取キットをお送りいたします。

測定のご相談、ご用命は

株式会社環境総合リサーチは株式会社建設技術研究所（CTI）グループの一員です。

株式会社
環境総合リサーチ
Environmental Research & Solutions co., Ltd.
e-mail : contact@ctiers.co.jp URL : http://www.ctiers.co.jp/

本社・けいはんな事業所：〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台二丁目3番9
Tel.0774-41-0200 Fax.0774-95-6510
中部事業所：〒444-0012 愛知県岡崎市栄町4丁目1番地
Tel.0564-21-0062 Fax.0564-65-5277
東京事業所：〒135-0016 東京都江東区東陽6丁目5-6
Tel.03-6666-0570 Fax.03-6666-0571